

## 4) 産科的 DIC・MOF に対し集中治療にて救命し得た症例

金子 亨・山本 泰明  
塚田 清二・丸橋 敏宏 (県立がんセンター  
高橋 威 (新潟病院産婦人科)

## 5) 黄連解毒湯の血小板機能に及ぼす影響

楊 麗波・服部 晃  
布施 一郎・樋口 渉  
木村美奈子・柴田 昭 (新潟大学第一内科)

## II. 特別講演

## 虚血性脳血管障害に対する血管内手術

広南病院血管内脳神経外科医長

高橋 明 先生

## 第23回新潟血栓止血研究会

日時 平成4年5月30日(土)

午後3時~6時

場所 新潟グランドホテル

5F 波光の間

## I. 一般演題

1) 血小板活性化における C-kinase の関与  
—各種凝集惹起剤における検討—

布施 一郎・柴田 昭 (新潟大学第一内科)

## 2) 感染症における凝固線溶活性化

関 義信 (県立妙高病院内科)  
高橋 芳右・和田 研  
庭野 裕恵・柴田 昭 (新潟大学第一内科)

【目的】各種感染症における凝固線溶動態を感染の重症度と対比して分子マーカーレベルで検討する。【対象・方法】臨床的に DIC 非合併感染症と診断した65症例の TAT, PIC, protein C, vWF: Ag, Fbg, FDP, D dimer を同時に測定し, CRP, WBC, Plt を加え各パラメーター間の回帰分析を最小二乗法にて行い, 相関係数 (r) を算出した。また感染の重症度として CRP を用い, 感染の重症度と各分子マーカーの関係を解析した。【結

果】1. 感染症では TAT, PIC, D dimer, vWF: Ag, の上昇, protein C の低下傾向を示した。2. 各パラメーター間で CRP と Fbg ( $p<0.001$ ), vWF: Ag ( $p<0.01$ ), CRP と WBC ( $p<0.001$ ), WBC と Fbg ( $p<0.01$ ), vWF: Ag ( $p<0.01$ ), Fbg と vWF: Ag ( $p<0.01$ ), FDP と D dimer ( $p<0.001$ ), Plt と protein C ( $p<0.01$ ), D dimer ( $p<0.05$ ) で有意の相関が認められた。TAT, PIC, D dimer の絶対値は CRP と有意な相関を示さなかった。3. CRP と protein C との間に逆相関する傾向が認められた ( $r=-0.231$ ,  $p<0.1$ )。4. 感染の重症度を  $0\leq\text{CRP}<0.5$  ( $n=14$ ),  $0.5\leq\text{CRP}<5$  ( $n=13$ ),  $5\leq\text{CRP}<10$  ( $n=11$ ),  $10\leq\text{CRP}$  ( $n=27$ ) の4群に分けて解析すると PIC の一部で有意差が認められたものの, 他は全体として有意差は認められなかった。5. 感染症の種類により呼吸器感染症 ( $n=41$ ), 胆道感染症 ( $n=3$ ), 消化器感染症 ( $n=12$ ), 尿路感染症 ( $n=7$ ) に分けて解析すると TAT, PIC, D dimer, protein C に感染の種類による有意差は認めなかった。【結語】TAT, PIC, D dimer の分子マーカーは DIC 非合併例において, その絶対値は必ずしも CRP と有意な相関を示さず, 上昇した。

## 3) 新潟大学第一内科における急性心筋梗塞に対する PTCA の成績

高橋 稔・田村 雄助  
田辺 恭彦・鈴木 正孝  
藤田 俊夫・山添 優  
和泉 徹・柴田 昭 (新潟大学第一内科)

## II. テーマ演題

## 1) 脳塞栓に対する局所線溶療法における凝血学的検討

—t-PA と UK の比較検討—

藤井 幸彦・伊藤 靖  
竹内 茂和・小池 哲雄 (新潟大学脳研究所)  
田中 隆一 (脳神経外科)  
佐々木 修・皆河 崇志  
小泉 孝幸・本田 吉穂 (桑名病院)  
小澤 常範 (脳神経外科)

目的: 血管内外科の発達により脳塞栓に対して局所線溶療法が行われる機会が増えたが, 使用する血栓溶解剤や投与方法についての議論は絶えない。そこで本研究では, tissue plasminogen activator (tPA) と urokinase (UK) を凝血学的に比較検討することを目的とした。対象: 主幹脳動脈閉塞を伴った脳塞栓患者42例を対象と